

【エクアドル内政・外交：2018年5月】

1. 内政

(1) 北部国境付近関連事件被疑者の逮捕（5月25日付け）

5月25日、北部国境付近関連事件の被疑者1人が新たに逮捕された。

ア 逮捕被疑者

国籍、年齢：非公開

氏名：Javier Valencia Malava（ハビエル・バレンシア・マラバ）

通称「Wainer（ワイネール）」

イ 逮捕日、逮捕場所

5月25日

コロンビア国内ナリーニョ県トゥマコ市内の路上（トゥマコ市は、エクアドルのエスメラルダス県サン・ロレンソ市と隣接し、エクアドルとの国境に位置する。）

ウ 逮捕容疑

1月27日にエクアドル国内サン・ロレンソ市において発生した警察施設に対する自動車爆弾事件及びコロンビア国内における複数の爆弾事件容疑等

エ この被疑者の組織的背景

この被疑者は、関連事件の首謀者としてエクアドル政府から指名手配されているエクアドル国籍の男、通称「GUACHO（グアチョ）」が率いる、元FARCを起源とする反体制派組織Frente Oliver Sinisterra（フレンテ・オリヴェル・シニステラ）の一幹部であり、コロンビア国内の反政府武装組織ELN（Ejército de Liberación Nacional、略称ELN、邦訳「民族解放軍」）とも強い繋がりを持っている。

2008年から2017年までの間、武器密輸等の罪によりコロンビア国内において服役していた。

(2) 閣僚の交替

モレノ大統領は、5月15日付大統領令第392号により経済財務大臣の交替を、5月16日付大統領令第416号により大統領府長官、国家政策庁長官、国家企画開発庁長官、運輸・公共事業大臣の交替を発表した。

また、5月15日付大統領令第395号により大統領府特別庁が新設され、同日付第399号により電力・再生エネルギー省及び鉱業省は、炭化水素省に吸収・再編され、名称がエネルギー・非再生可能天然資源省となった。

ア 辞任した閣僚

マリア・エルサ・ビテリ・アカイトゥリ経済財務大臣

アンドレス・イバン・ミデロス・モラ大統領府長官
ミゲル・アンヘル・カルバハル・アギレ国家政策庁長官
アンドレス・イバン・ミデロス・モラ国家企画開発庁長官
ビクトル・パウル・グランダ・ロペス運輸・公共事業大臣

イ 新閣僚

リチャード・イバン・マルティネス・アルバラド経済財務大臣
エドゥアルド・フラド・ベハル大統領府総務庁長官
ファン・セバ스티アン・ロルダン・プロアニョ大統領府特別庁長官（新設）
ビクトル・パウル・グランダ・ロペス国家政策庁長官
ホセ・アグスト・ブリオネス国家企画開発庁長官
ボリス・パラシオス・バスケス運輸・公共事業大臣（代理）

（３）エスピノサ外務大臣の国内長期不在への野党による批判及び同外務大臣の休暇申請

５月１８日当地エル・コメルシオ紙は、エスピノサ外務大臣が国内を長期不在にしていることへの野党による批判、２２日付当地エル・ウニベルソ紙は、エスピノサ外務大臣が、第７３回国連総会議長立候補の選挙キャンペーンのため、５月２４日～６月４日の期間の休暇申請を行った旨報じた。それぞれ概要は以下のとおり。

ア エスピノサ外務大臣への野党の批判（１８日エル・コメルシオ紙）

- ① １７日、野党CREO所属の２０名の議員の発意で、エスピノサ外務大臣の弾劾手続き（juicio politico）の開始のための国会議員の賛成署名集めが開始された。
- ② CREO所属の２０名に加え、SUMA所属の６名の議員、小党の連合会派「国家統合運動」所属議員１５名が、本件発意へ賛成することが見込まれている。また、２９名とされるコレア派議員の会派も、エスピノサ外務大臣や、前内務大臣、前国防大臣への追及を検討していることから、本件CREOの弾劾手続きの開始に賛成すると見込まれる。
- ③ CREO所属のファブリシオ・ビジャマル議員は、現時点で８６票の賛成は見込んでいた旨述べた。本件手続きが開始されるためには、国会の９２票が必要となる。
- ④ 与党会派は、現在４４名の議員で構成され、同会派のヒメナ・ペニャ議員は、野党が提出する要請書を読んでから判断するが、同発意は「魔女狩り」の類いであると述べた。

⑤ エスピノサ外務大臣の、本年2月に本件立候補を表明してからの外遊は、以下のとおり（エクアドル外務省からの情報に基づくもの）。

2月 スイス（人権理事会関係会合（寿府）へ出席）

3月 ハイチ，ドミニカ（共），スリナム（二国間関係強化のため）
チリ（大統領就任式）
米国（国連の関係会合（NY））

4月 アゼルバイジャン（非同盟諸国閣僚会合）
ペルー（米州首脳会合）

米国（OAS常設理事会（ワシントンDC））
カナダ（ジェンダー平等及び女性の地位向上関係の会合（加トロント））

5月 米国（北部国境地域における協力の強化のための会合，
国連加盟国と総会議長立候補者との対話（いずれもNY））
コスタリカ（大統領就任式）

キューバ（ECLAC第37回総会）

ロシア（経済協力に関する政府間会合）

（なお、エスピノサ外相は、エクアドル・テレビ（当地公共放送局）のインタビューにおいて、ロシアに続き、ベラルーシも訪問した旨述べた。）

イ エスピノサ外務大臣の休暇申請（22日付エル・ユニベルソ紙）

① 第73回国連総会議長選挙を前に、エスピノサ外務大臣は、同選挙のキャンペーンに専念するため、5月24日～6月4日の期間の休暇申請を行った。

② 同外相は、最近のロシア等への外遊では、選挙キャンペーンは行っておらず、同選挙のためになることとして行った唯一のことはホンジュラスの対抗馬も出席した5月4日の国連における会合への出席である旨述べた。

③ また、同外相は、エクアドル・テレビのインタビューにおいて、「現在、ホンジュラス外相は世界中を巡っており、右は当然のことである。残念ながら、エクアドルの有する国際的な実績に対し、（ホンジュラスの候補は）かなり弱い候補である。」と述べた。

④ 報道関係者3名の誘拐と殺害の事案におけるエクアドルの対応に関する国会への説明を不在のために行っていないことへの批判として、弾劾手続きが開始されることの可能性については、同外相は、右は、最も重要な国際機関である国連総会をエクアドルが然るべく代表することを避けるための政治的な追及である旨述べた。

⑤ さらに、同外相は、ホンジュラスとの間で事前に合意された相互間の支持はなかったと述べ、エクアドルからホンジュラスに対し、米州人権裁判所判事へのパトリシオ・パスミニョ候補の支持を要請したことは認めたと述べた。

ラスは右に対し回答をせず、後に同候補への一方的支持を行う意向を表明した、と述べた。

(4) モレノ大統領の支持率

5月20日付当地エル・ユニベルソ紙は、モレノ大統領の施政1周年を前に国内民間調査会社による同大統領の支持率に関する調査結果（政権発足直後と本年4月との比較）等を掲載した。概要は以下のとおり。

ア 調査結果

・ Cedatos 社

	支持	不支持
2017年5月	66%	23%
2018年4月	45.5%	46.6%

・ Perfiles de Opinion 社

	支持	不支持
2017年7月	84.96%	14.98%
2018年4月	46.51%	53.49%

・ Opinion Publica Ecuador 社

	支持	不支持
2017年5月	65.9%	22%
2018年4月	63%	32.3%

イ 記事概要

① 5月17日、モレノ大統領は、内外の企業家に対して、「新しい社会主義は、包括的な社会主義であり、私の政府では、対話に基づくものである。」と発言。コレア前政権での「21世紀の社会主義」との決別を宣言した。

② 政治アナリストのパトリシオ・カルピオ氏は、「モレノ大統領が対話の必要性を主張するのは、コレア前政権の方針との決別、新しいアイデンティティの模索の結果である。」と見ている。一方、モレノ政権発足後に辞任した閣僚（コレア派）の中には、政府が右傾化したと見ている者もいる。

③ Opinion Publica Ecuador 社のディミトリ・オニャ氏は、不支持が増加していることは「政治的消耗」において普通のことであると評した。しかし、経済状況や閣僚の交替が国民にはネガティブに影響している部分もあるとの見方も示した。

(5) モレノ大統領の就任1周年演説

5月24日、モレノ大統領は、就任1周年を機に、エクアドル国会で演説を行い、今後の施政の3つの柱として、全ての国民の人権促進、社会のためになる経済推進、市民・社会参加の意義、を挙げた他、各省庁へ2週間以内の会計の見える化を指示し、雇用創出・投資誘致のための法案を国会に提出した。

翌日（5月25日付）のエル・コメルシオ紙、エル・ユニベルソは、主に、同法案の提出と、経済促進を柱の一つに据えた点を強調しつつ、報じた。

(6) 外務大臣の弾劾手続き開始の要求の提出

5月31日、野党議員を中心とした59名の議員の署名により、エスピノサ外務大臣の弾劾手続き（juicio politico）の開始が国会（国会議長）に対して要求された。関連の報道振りのポイントは以下のとおり。

ア 5月31日、PSC、CREO、SUMA等に所属する59名の議員の署名により、エスピノサ外務大臣の弾劾手続き（juicio politico）の開始を要求する申請書が国会議長宛に提出された。右を受け、国会運営理事会（CAL）は、同要求の適否を審査することとなる。

イ 署名した議員は、ベネズエラ情勢に対する立場、北部国境付近の情勢への対応、国連総会議長選挙を巡るホンジュラスとの約束を反故にしたこと、アサンジ氏へのエクアドル国籍の付与等を、エスピノサ外務大臣への批判の論点として提示している。

ウ モレノ大統領は、Deutsche Welle（独放送局）のインタビューにおいて、「アサンジ氏のエクアドルへの帰化の決定については、私が行ったものではなく、エスピノサ外相が行ったもの。右は、最も適切なものではなかったが、私は右を尊重する。」と述べた。ロベルト・ゴメス議員（CREO）は、モレノ大統領の様々な発言等を踏まえれば、エスピノサ外相が外交業務を然るべく遂行していないと考えられる旨述べた。

2. 外交

(1) モレノ大統領他のコスタリカ大統領就任式への出席

5月6～8日、モレノ大統領夫妻、エスピノサ外相他が、コスタリカの大統領就任式に出席した。

(2) エスピノサ外務大臣の国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECL

AC) 第37回総会への出席

国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）第37回総会がキューバで開催され、これへの出席のため、5月11日、エスピノサ外相がキューバを訪問した。

(3) エスピノサ外務大臣のロシア訪問

5月16日、エスピノサ外相は、ロシアを訪問。ラブロフ外相と会談を行い、両国の経済関係強化等について意見交換を行った。

(4) イラン核合意に関するエクアドル外務省プレスリリース

5月16日付で、エクアドル外務省は、核を含めた大量破壊兵器の不拡散のための2015年のイラン核合意の重要性を強調するプレスリリースを発出した。

(5) アサンジ・ウィキリークス代表の亡命問題（在英エクアドル大の特別警備の取止めの発表等：エクアドル政府による対外発表ぶり）

5月17日、国家コミュニケーション庁が、在英エクアドル大使館においてこれまで配備されていた特別警備を取り止め、通常の警備体制に戻す旨を発表した。関連の報道振りの概要は以下のとおり。

ア エクアドル政府は、5月17日、アサンジ・ウィキリークス代表が匿われている在英エクアドル大使館における「追加警備」を取り止めることを発表した。メディアの調査によると、アサンジ氏を保護するためにコリア前政権がとっていた体制は高額なものであったようである。

イ 同日（5月17日）の公式声明の内容は、「国家コミュニケーション庁は、レニン・モレノ大統領が、在英エクアドル大使館における全ての追加的警備を速やかに取り止めるよう命じた旨、国民に報告する。今後、（同大使館は）世界の他のエクアドル大使館と同様の通常の警備体制を維持する。」というもの。

ウ 本件は、ガーディアン紙が16日に、アサンジ氏の保護及び支援のためにコリア前政権が高額な諜報体制を講じていたことを明らかにしたことを受け、モレノ大統領が行ったもの。

コリア前政権は、国家情報庁（SENAIN。モレノ大統領により現在は廃止されている。）及び来館者の監視をしていた警備会社が参加する形の同体制に、500万ドルを支払った。

エ エクアドル政府は、3月には、アサンジ氏が他国の事案への介入を続けており、同氏がその種の事案に干渉しないとの「約束の不履行に対する新しい手

段」を取る旨忠告をしていたことから、同氏の外部との全てのコミュニケーションを遮断した経緯がある。

(6) ベネズエラ大統領選挙実施に関するエクアドル政府対外発表

国家コミュニケーション庁は、5月23日付でベネズエラ大統領選挙に関する公式声明を発表した（以下概要）。

ア エクアドル政府は、各国の国民の自由な決断及び内政不干渉の観点から、先週日曜日の選挙におけるベネズエラ国民の平和的な姿勢を認める。

イ しかし、同胞であるベネズエラ人の置かれている困難な状況、及び選挙プロセスへの野党の参加条件に関して、懸念を表明する。

ウ 我々は、兄弟国ベネズエラの全ての政治・社会アクターに対して、自国が直面する民主的な解決及びこの歴史的瞬間における決定的な和解に導く手段は、寛容さ及び平和を伴った対話プロセスであることを、呼びかける。

(7) アンデス共同体の議長国の交替

5月29日、アンデス共同体（CAN）の議長国がエクアドルからペルーに交替した（於リマ）。

（了）